

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和6年度第2回加東市商工業振興協議会
開催日時	令和6年11月26日（火）14時00分から15時53分まで
開催場所	加東市役所 4階 402会議室
議長の氏名（長沼 恒雄） 出席及び欠席委員の氏名 （出席委員 9名）長沼 恒雄、柳 隆之、増田 一貴、小林 宮子、吉田 伊佐見 長谷川 妙子、本岡 賢二、寺尾 優樹、長田 徹 （欠席委員 1人）川元 浩司	
説明のため出席した者の職氏名 —	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 産業振興部商工観光課 課長 杉本 亜弥子、副課長 竹内 誠彦、主査 森本 正明、主事 新地 翔太	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 別紙「令和6年度第2回加東市商工業振興協議会の経過」のとおり	

(別紙) 令和 6 年度第 2 回加東市商工業振興協議会の経過

1. 開会

2. 議題

(1) 令和 6 年度商工業振興施策の進捗状況について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、令和 6 年度商工業振興施策の進捗状況について説明を行う。>
委員	3 ページ、「創業・事業継続支援関連」の「創業者支援補助事業補助金」について***、今事務局から説明いただいたように、実際に公募に対して、2、3 件しか受託出来ません。 実際、創業時の 1,000,000 円補助ということで、それぐらいの金額がいただけるということが逆にありがたく、商工会の方も悪いと思うのですが、しっかり創業支援の時に加東市は、創業者支援の補助金制度を設けてますが、大体数件程度しか通りませんよ、頑張ってもそればかり当てにしているといけないよということを言っておく方がいいと思います。 募集要項も見たんですけど数に限りがあるところとか、打ち切りじゃなくてどういう条件で、有効期間や先着順なのか、どういう形でしているのかっていうのを書いておいた方がいいと思います。 それでないと 10,000,000 円程度予算を確保できたらいいのですが、実際には 2、3 件程度となりますし、他の事業もしていただいているので予算を急増するのは難しいのはわかっているのですが、今ご説明があったように非常に今、若い子が創業意欲があって、ありがたいことに商工会員にもなっていていただいています。 創業塾は非常に活用されており、私も他の県の補助金とか国とかいろいろもらうのを検討してますかというような話をしたのですが、やっぱり身近なところで市の補助金を検討され、セミナーの先生も、市にいい補助制度があって、あなただったら通るといような軽いことを言っています。 実際にそんなに甘くありませんが、若い子たちは出したら通ると思っています。 加東市としてはいいことしてるんですけど、そうではないということ、今 2 人か 3 人なのに、18 人が申請して全部通してくださいと増やすわけにはいかないですね。 どこまで枠を増やせるか。いいことだけどやる気のある子が多くて最近の若い子ってみんな自分が通ると思っているので、どうしたらいいでしょう。 今日の説明聞いてたらやむを得ざる対応だと思うのですが、いかがでしょう。

事務局	この補助金の申請は、昨年度までは本当に 5 人までとか、年によっては本当に 1 人あるかないかっていう補助金があるのになかなか使っていただけないというところでした。 そこで使いやすい制度にという変更を行って、全く申請がなかったのですが、今年、すごくやる気のある方が増えてきて、本当に事務局も驚きと嬉しい気持ちでとらえています。 その中で、できるだけ皆さんに行きわたればいいんですけども、補助金の財源も限りがありますので、基準っていうのをきちんと設けていきたいとは考えています。 いくらかは予算要求もしたいとは考えてますけれども、ちょっと今年の財政状況からどこまで確保できるかというところは分かりませんが、来年に向かってはどういう方に使っていただきたいのかというところを整理して、その方々に少しでも使っていただけるような仕組みにしていきたいと思っています。
委員	そうしていただければいいと思います。 あとはもう商工会と連絡を密にすることと、他にも県とかいろんな補助金あるので、やっぱりセミナー参加している生徒とか、加東市で創業したいという人達、他にもいろいろあるでしょうけどそこにうまく結び付くような補助金の紹介等をいただければと思います。 あとはもう自助努力だと思います。今までこんなことで聞いたことがなかったんで、本当に急に増えたということですね。
事務局	5 人いるかないかというところが 10 人以上となっています。
事務局	令和 4 年度が 5 件、令和 5 年度が 5 件となっている中、令和 6 年度は 10 件を上回るという状態となっています。 補助金などの創業支援制度の紹介については、昨年度から創業塾の中でお時間をいただき、させていただいています。 その中でもやはり、今年創業しようという方や来年度考えている方、まだ分からないという方がおられますが、昨年度と今年度はすぐに創業を考えておられる方が多かった印象です。 先ほどおっしゃられた国や県のスタートアップの支援制度は商工会と連携してしているところですが、市の方もしっかりと情報をつかみながら、引き続き連携して行っていきたいと思っています。
委員	よろしくお願いします。
事務局	要綱に適合しているかという審査を行っているのですが、創業塾を受講すると補助金を申請することができるという PR が少し緩かったと思います、その点は反省しています。 創業塾を受講したのに申請することができなかったということはないように、そこは商工会と連携していきたいと思っています。

委員	こちらの方も理事会でも話題になってますけど、実際に2・3年の間に廃業する方も多いので、やっぱり精査しないと補助金は税金で、税金が生きてこないで、多いけど、質も良くならないと思いますので、頑張っしてほしいと思います。よろしくお願いします。
事務局	廃業になってしまうのではという見極めはどの点でされるのでしょうか。
委員	計画とか、資金繰りをちゃんと考えてるかという部分だと思います。3か月程度で甘く考えておられます。 従業員への給与など、製造業の方は長期的な計画を立てられますが、現金で管理されている方は最初のお金と数か月間程度のお金しか考えていません。 本当に何かあったときに駄目だとか、売れなかったときどうするかとかという部分が大切です。でもきっかけで、2、3か月がたってから芽が出た頃に資金ショートしていたら続かない。創業塾で伝えてくれていると思いますが、そこが学生時代との違いだと思っています。 経営者になると、従業員は働いてから入ってきますけど、経営者は稼げなかったら入ってこないで、経営者はそういう感覚になっていただけたらと思います。
議長	今、定年見据えて起業しようという方や、副業的にしようとする方など、多種多様な創業が増えています。 創業者支援補助事業補助金の審査についても、日を決めてプレゼン審査をするなどをした方が良いと思います。 実際、創業塾に出席した際にビジネスのプレゼンテーションを聴きますが、このビジネスはダメではないかと思うものもあります。 事業計画をみてもよく分からないというものもあると思います。
事務局	創業者支援補助事業補助金の審査については、申請時に創業塾で作成する事業計画書とは別に補助金の目的である地域経済への波及効果や雇用の創出といった内容を含んだ事業計画書を10ページ程度作成いただき、商工会の確認・指導・推薦を経てから提出いただくこととしております。
委員	議長が言われましたように、副業っていうか本業は担保であって、ちょっと時間が空いたからやってみようかなという人が多い印象です。 昨年度、創業塾に行かせていただいたのですが、今日来て、今から何をしようか考えようと思っていますという人達がほとんどでした。 創業塾を受講して、事業計画書を作成しても、ビジョンがない方のビジネスは難しい部分があるのではないかと個人的には感じました。 その人自身がやる気があるのかという部分の見極めが大事なのかなと思いました。 ですので、先ほど事務局が言いましたが、やっぱりまだまだ商工会の方と連携して、その人自身がやる気があるのかという部分も含めて審査をしていかないと、制度は広げているが、1年後には辞めてしまっているという人が出てきてしまうと思います。

議長	私自身もよく、国や県などの補助金を申請するのですが、全てプレゼンテーションを実施しています。そこでちゃんと表現できるかどうかという点が大事になっています。 時間の関係もありますので、次の議題へ移りたいと思います。
----	--

(2) 事業承継支援に係る施策について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、事業承継支援に係る施策について説明を行う。>
委員	商工会の青年部の方でも、商工会としては事業承継支援などを取り組んでおられると思うんですが、今若いメンバーが集まってくる中で、事業活動が地域貢献寄りになってきている部分があります。 青年部の中でもこういった事業承継などビジネスの話については仲のいい人だけになって、偏ってしまっているところがあるので、もう少しビジネスチックなところにもバランスをとって取り組んでいかないとダメだと思い、部長と話しています。 あまり深い話になると青年部ですら話しづらいという部分があり、交流会はいいと思うのですが、なかなか初めて参加される方は話しづらいのかなと正直思いますので、ただ青年部の方では祭りなどがメインになってきてしまっており、それはもちろん地域貢献という意味合いで大切だと思うのですが、ビジネスも地域貢献に繋がりますのでそういった意味でも力を入れていかないダメだなと思っていますが、難しい部分だと感じています。
委員	あの事業継承の生の声を聞かせていただきたいのですが、今、事務局案として、補助制度などがあがっていますが、どんなことが求められているのでしょうか。
委員	私たちも最近はできていないのですが、青年部の中でもこういったことをして売上が上がってきたやこういった制度を活用して補助金を獲得できたなど、青年部だけのセミナーを行うときは、知っているようで普段どういうことをしているかは知らないなので、例えば事業承継をして良かったなど経験談などをきくことができればいいのかなと思います。 実際お金の部分はとても大きいところなので、失敗も成功もした人の体験談を聞くことができれば受講者の方にも内容が入ってきやすく、いいのかなと思います。 私たちは話をすることも勉強になりますし、いいと思うのですが、なかなか語ってくれる人がいないのかなと思います。

委員	私の話で言いますと、ガソリンスタンドは下火の商売になりますので、大きな借金も抱えており、親としては継がなくてもいいのかなと思う部分がありました。 息子が 10 年間外へ出て、そのときの経験を元に 10 年間で得た知識を駆使して自分なりに色々やっています。 昼も夜も仕事をするという時代ではなくて、するときはする、休む時は休むという時代ということ言われます。 だから、やっぱり今言われた経験それが自分に合うかどうかは自分で判断して取り組んでいるみたいなので、本人がやりたいことは見守っているという感じです。 だからやってみようかなではなくて、何とかしないと駄目だって言う本人の気持ちが一番のような気がします。
議長	事業承継をされる側のようなお話になりましたけれども、こういうケースのケーススタディビジネススクールで、この前、商工会の県連の経営指導員向けのセミナーで***の***の社長さんが前任者の娘さんで、30 代半ばでご自身が承継された時のことや変えていった時のお話のプレゼンテーションがありました。 そういった事業承継の事例の方は結構発表をされていますので、市と商工会の方でも定期的にお呼びして、スクールのものやってみてもいいのではないかと個人的には思います。 親がやってきた事業をそのまま引き継ぐのではなく、そこから皆さんがどう変えていくのかというところが大切だと思いますので、そういったことに着目したセミナーもよいのではないかと思います。 時間もありますので、次の議題へ移りたいと思います。

(3) HYOGO TECH イノベーションプロジェクトについて

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、HYOGO TECH イノベーションプロジェクトについて説明を行う。>
委員	合っているか間違っているか分かりませんが、何か具体的にこんなまち、こんな所があったらいいのになという加東夢マップみたいなものをみんなで作りあげて、コンペ的なもので募集をかけて、今こう言う事業をしているけど、やめてこっちに来るわなど、具体的なものを引っ張ってこないと夢物語で終わってしまう気がします。 兵庫教育大学には学生が約 1,100 人いるのに、なぜ加東市内にはお昼に学生がいらないのだろう、土日はどこにっているのだろう、遊ぶ場所はないのかなと単純に思います。 ですので、少し発想を変えて、こんなものがあつたらいいのになという夢マップで公募をかけて、事業承継よりもそういう発想にした方がいいのではないのかなと個人的にはそう思いました。

事務局	例えば公共交通機関がないことがよく言われていますが、それを支えるものがあればいいなというのやみんなが楽に移動できたらいいのになという夢のあるようなものを洗い出して行って、提案して、それを実現するためにはこんなものがありますよといった提案を受けていく方が近いということですね。 現在、課題の洗い出しをすると固く、喫緊の課題を新たな技術で解決しようというのは合致することがなかなか難しいと思いますので、こんなまちやったらいいのになということを洗い出していくという方法も有力だと思います。
委員	今、色んなまちがシャッター通りになっていますが、この前テレビで放送されていたのが、商店街をホテルに改造してすごく儲かっているというのを観ました。発想の転換だと思います。
委員	10月に大阪にとまったのですが、全然ホテルの予約が取れませんでした。 インバウンドの需要と日本人の国内旅行も増えてきていますが、兵庫県はホテル事業が遅れていて、神戸でも姫路でも泊まってくれない。この前新聞に出ていましたが、大阪が一番、京都府、奈良県と兵庫県は日帰り利用でお金が落ちていません。観光があっても通過されてしまう。 ここに外国人の人達はきているし、そういった意味でもホテルを作るなどの課題を与えると面白いと思います。 そうすると日本人も来ると思います。 今の若い子って別に綺麗で豪華な宿泊施設でなくても古民家などでも泊まるんです。そんな感じの課題を与えるとまた面白いと思います。 それにこの前、兵庫教育大学との連携事業で学生さんの話を聞きましたが、そういう観光面の話題もありました。 兵庫教育大学といいながら加東市の中心市街地を知らないといったこともありますので、その子たちに加東市を知ってもらうためにはというのも課題だと思います。 そこで調査してもらうなどきっかけを作ってもらえるといいものだと思います。 宿泊でここに引っ張ってこれたら、高速道路もありますしお金落ちるところになると思いますし、いいと思います。 課題を提示することで、若い人達が手を挙げてくれたらなと思います。
事務局	ホテルでいうと相当数宿泊需要があると聞いています。 理由は市内のゴルフ場のほとんどに宿泊施設がついていないためだそうです。 ホテルの方に聞くと、加東市でゴルフを楽しんで、加東市のホテルに泊まって、小野市のゴルフ場など近隣市町のゴルフ場に後日行くといった方が多いそうです。 そういったところでいうと宿泊客が増えてという部分は潜在能力が高いのかもしれない。 例えば、それをこんなまちにしていきたいというような話もいいのかもしれない。それを先ほど***委員がおっしゃった夢マップ的な形にするのもいいのではと思いました。

委員	そういったことで加東市に魅力が生まれて、加東市でお店を開きたいという人が増え、工場誘致しても人が来ない、運送業しか来ないではなく、ここで住みたい働きたいという人達が増えるまちになるといいと思います。
委員	市自体が全体を観光のまちとして旗振りしてほしいと思います。 加東市は、清水寺だけというのではなくて、美味しいものもありますし、闘竜灘もあるといった全体を観光のまちとして旗振りしてほしいと思います。 遠方から来られた方もどこからが加東市でどこからが三木市か分からないとなっています。 鹿児島県の一つのまちでは、JR しか入っていないのですが、その周辺の農家さんなどが観光客が通られた時にみんなで手を振るそうです。恥ずかしいかもしれませんが、観光客の方々は私たち歓迎されているなと感じると思います。 加東市＝ゴルフ場、加東市＝朝光寺、加東市＝闘竜灘というとなかなか重い感じがしますので、「加東市観光のまち」や「加東市やすらぎのまち」など大きなものを市が旗振りしてできればいいなと思います。
委員	雇用の創出、働き手の話が大切ですのでその点は必要です。
事務局	こういう風なことという課題があれば、大小関係なく上げていただくということによろしいでしょうか。
事務局	事務局側の提案課題案は大きい課題となっていますが、やはり感じる課題というところはそれぞれ違いがあると思います。 先ほどの話題や、雇用の課題などどういう風に解決していけばよいのかというのはやはり難しい部分だと思います。 ただ、本内容についてはそういったものでも問題ございません。 時間内で一つ提案課題を確定するという事は難しい部分でありましたので、別紙の検討用シートに解決したい課題や解決に取り組む背景などに当てはめて記載いただければと思います。 今回のお話で申し上げますと、例えば、兵庫教育大学があるものの市内に若者がおらず活気がないという解決したい課題を設定し、想定する将来としては、兵庫教育大学周辺に新しいまち、魅力ある場所が生まれることで事業者が入って来て、社商店街や市内に学生が足を運んでくれるという将来を提案する。そのような内容で提案することは問題ございませんので、そういった形でぜひいただければと思います。 特に期限は設けておりませんが、第 3 回の協議会を 2 月から 3 月に予定しておりますので、それまでにシートでなくても、市役所に来庁された際でも結構ですので商工観光課にお立ち寄りいただき、こういう風なことを感じているといったことをお伝えいただければと思います。
議長	皆様多様なご意見をいただきありがとうございました。 なかなか時間がありませんでしたので、皆様ご意見がありましたら、事務局の方へお伝えいただければと思います。

3. その他

4. 閉会